

研究課題：メタボリックシンドロームと口腔の健康および歯科保健行動との関連性に関する  
調査研究 ―メタボリックシンドロームと歯周病の関連性に関する疫学研究―  
研究者名：森田十誉子<sup>1)</sup> <sup>3)</sup>、山崎洋治<sup>1)</sup>、小川洋子<sup>1)</sup>、高田康二<sup>1)</sup>、瀬戸美才<sup>2)</sup>、西埜植規秀<sup>2)</sup>、  
本橋正史<sup>3)</sup>、前野正夫<sup>3)</sup>  
所属：<sup>1)</sup> 財)ライオン歯科衛生研究所、<sup>2)</sup> ライオン(株)健康管理室、<sup>3)</sup> 日本大学歯学部衛生学教室

## 【目的】

メタボリックシンドロームは、内臓脂肪型の肥満を基盤とした複合的な症候群である。

糖尿病、肥満、高脂血症などメタボリックシンドロームに関わる個々の指標と口腔の健康との関連性については数多く報告されているが、メタボリックシンドロームという概念と口腔の健康との関連性を調査した報告は少ない。

そこで、口腔保健の重要な要素である歯周組織の健康状態とメタボリックシンドロームの関連性について明らかにするための一環として、職域成人の医科および歯科健診の結果を用いた横断調査を行った。

## 【対象および方法】

### 1) 対象者

対象は、東京に本社のある事業所従業員のうち、定期健康診断を受診（2002 年）し、本研究の趣旨に同意が得られた者（2,088 名、20～56 歳、平均年齢 40.4 歳）である。

### 2) 調査内容

メタボリックシンドロームの指標としては、肥満（BMI 25 以上）、高血圧（収縮期血圧 130 mmHg 以上/又は拡張期血圧 85 mmHg 以上）、脂質異常（トリグリセリド 150 mg/dl 以上/又は HDL コレステロール 40 mg/dL 未満）および高血糖（空腹時血糖 110 mg/dL 以上）を用いた。歯周病の指標としては、歯科健診結果の CPI 個人コードを用い、2 以下（歯周ポケットなし）と 3 以上（歯周ポケットあり）に分類した。統計解析は、JMP（SAS Institute Japan）を用いて性別、年齢で調整し、多重ロジスティック回帰分析を行った。

## 【結果および考察】

1) 対象者の歯周組織の状態を CPI で評価したところ、歯周ポケットあり（個人コード 3 以上）は、592 人（28.4%）であった。また、メタボリックシンドローム指標の陽性状況は、1 つ以上陽性の人が 51.4%であり、20～50 歳代という若年層を含む職域成人においても、メタボリックシンドロームの予防が重要であると考えられた。

2) 歯周病に対する BMI、トリグリセリドおよび空腹時血糖のオッズ比は高く、いずれも関連性が認められた。

3) メタボリックシンドローム指標の陽性数は多くなると、歯周病に対するオッズ比が高かった。

結論として、若年層を含む 20～50 歳代の職域成人男女において、歯周病とメタボリックシンドロームの間には密接な関連性があることが示唆された。今後は、コホート研究を行い、メタボリックシンドロームと歯周病との関連性をより明確化していく予定である。